

## 平成 30 年度第 1 回兵庫県立図書館協議会 会議録

### 1 日時及び場所

平成 30 年 10 月 2 日（火） 10:00～12:00

### 2 出席者

協議会委員 廣岡会長 尾崎副会長 松井委員 角本委員 西山委員  
石堂委員 森玉委員 久野委員 西野委員 小坂委員

教委事務局 社会教育課木山副課長兼施設・管理班長 瀧口指導主事

県立図書館 岡田館長 清宗次長  
梶本総務課長 西田利用サービス課長 井上ふるさと・資料課長

### 3 議事

#### (1) 平成 29 年度県立図書館事業実績について

次長より資料 1 に沿って平成 29 年度の事業実績を報告

委員の質問・意見と図書館の説明

- (委 員) 図書館の図書館という立ち位置ではあるが、もう少し図書館に賑わいが欲しいと思う。色々な企画展示をされているが、遠方で来館出来ない方のために、移動展示や展示素材を市町村に貸出してはどうか。また展示毎の集計をとり、人気のあるもの無いものを分析してはどうかと、以前の協議会で提案したがその後どのようにされているか。
- (図 書 館) リニューアルオープン後、まだ 2 ヶ月程の開館のため現在は館内の展示に尽力している。今後、検討していきたい。
- (委 員) 展示の貸出しについては、各市町に事前に貸出し希望を聞いて実施していただければと思う。各市町立への支援としても検討していただきたい。
- (委 員) 図書館寄席など新しい講座をされているが、例えば寄席を書庫の中で行い、その書庫の資料に合わせた内容にするなど、本との距離を近づけるような仕掛けをする。山田錦の展示であれば、日本酒の試飲会で日本酒を飲みながら関係する文献を見てもらうなど、他の団体・素材とコラボレーションすることで広がっていき、身近になっていくのではないかと思う。
- (図 書 館) 今も社会教育施設やピッコロシアターと連携して本の展示などにも取り組んでいる。民間との連携については今後取り組んでいきたい。
- (委 員) 展示関係が充実していると感じた。この展示が各地に広がっていけば良いと感じた。にぎわいという点で、以前実施していたビデオミニシアターについて今後の実施の予定を伺いたい。
- (図 書 館) 新しい試写室ができていますが、どのように利用していくかという点は検討中である。各委員からご提案頂いている他団体との連携については取り組んでいくべきと考えているが、図書館は民間についての情報が少ない。是非委員の皆様から情報提供をお願いしたい。

#### (2) 平成 30 年度県立図書館事業実績（4～8 月）について

次長より資料 2 に沿って対応状況を説明

委員の質問・意見と図書館の説明

- (委 員) たくさんのイベント・講座をされているが、このことを知らない人が多いと思う。図書館でツイッターはされていないと以前伺ったが、学生などの若い人に知ってもらうにはよいツールだと思うがいかがか。
- (図 書 館) ツイッターに関しては、アカウントの取得方法の関係で利用をしていない。なお、今年度 7 月よりインスタグラムを開始した。
- (委 員) 昔と比べて大分開かれた図書館になった印象をもった。前よりも色々な団体との繋がりや高校生など多世代との関わりも増えてきたと思う。

神戸新聞の連載記事で、色々な図書館が紹介されている。県立図書館とは立ち位置が異なると思うが、開かれた図書館やにぎわいのある図書館をめざすのであれば、参考にすべきだと思う。「歩く」ということを取り入れて図書館を活用する。また、沖縄のある図書館では、雨で何も出来ない観光客向けに宿泊先へ本を持って行って利用してもらうなど、とてもおもしろい取り組みをしている。

リケジョ・リケオの講座もとてもおもしろい。ただ、若い人は紙媒体を見る機会が減ってきていることを踏まえた効果的な広報が必要だと思う。明石公園内を採検しながら植物の勉強ができるという講座は、例えば「これで夏休みの自由研究もOK」というようなネーミングをつけてみるなどしてみてもどうか。

(図書館) ネーミングについてももっと考えていきたい。またテーマについては、利用者のニーズと合致しているのかということを考えなければいけないと思う。

(委員) 芦屋の方で本の読み聞かせ講座をされており、1年間の講座の最後に修了証を渡して図書館のサポーターになれるという活動をしている。県外からの参加者もいたそうだ。子どもたちにいい本を与えたいと思う親御さんは多いので、そういった講座に取り組んではどうか。シルバー世代であれば民俗学であったり社会学などの勉強会で講師から本を紹介してもらおう。そういった講座から、今まで知らなかったことが知識として得ることが出来る、本に近づくことができるので図書館の役割としてもできることがあるのではないかと。

(委員) 最近の図書館は、小さな催しで人を集めるだけではなく図書館本体で人を呼ぶ傾向がある。お茶を飲むスペースやその他のスペースがあったりアミューズメント化してきている。多くの人を呼び込んでそこからそれぞれが好みにあわせて細分化されていく。

また、他の図書館で色々なリーフレットを見ても定員が10人や20人になっている。施設の大きさ、担当職員の配置人数の関係、子ども向け行事であれば安全面に配慮するのでボランティア等を確保できないと多人数の参加を募集できない。内容のある講座であってもそういった問題からたくさん参加者を呼べないということもある。

集客の方法として外部との連携も考えられるが、バリアフリー研修会を伊藤忠記念財団と実施されている。そういった外部からの申し出というのはどのくらいあるのか。

(図書館) 伊藤忠記念財団については全国で同様の活動をしており、今年は兵庫県でどうかと打診があったため実施したが、外部からの申し出は多くはない。

(委員) 図書館全体が変わろうとしている動きがあり、講演のテーマも図書館の充実や超高齢地域社会に挑む図書館など前向きなものが多く見受けられる。

この近くで言うと天文科学館が「プラネタリウムで寝ちゃいましょう」という斬新なイベントをやっている、図書館で寝ておられる中高年の方の話もあったので、図書館でゆっくり寝ていただくというような発想も必要かもしれない。

企業が指定管理をしている施設であればこちらからアプローチをかければいろんなアイデアがもらえるのではないかと。

(委員) 他団体との連携の件について、例えば私は蔵書票の収集をやっている。紙の宝石ともよばれており、芸術性を評価されてコレクターも多いが、本に携わる人の中でもあまり存在を知られておらず、とても残念だなと感じている。

県立図書館で企画展示したり、書票協会と連携して全国大会を県で開催するということができればたくさんの方に来てもらえるだろう。子ども達も版画などに触れる機会にもなるのではないかと。

(委員) 県立図書館に足りていないのはPR・広報力だと思う。いいことをしているのにキャッチーなタイトルを付けられなかったり、見栄えが良くなかったりしている。職員が広報力を身につけるための研修があればいいと思う。市町の図書館と共に魅力的なPRについて考えてもいいのではないかと。

(図書館) 広報力については兵庫県全体での課題でもあり、民間の方にレクチャー頂いたりしている。引き続き研修等にも職員を参加させスキルを向上していきたい。

(委員) 例えば「図書館が発信する上手なSNS」というように対象を狭めた勉強の方が自分の職場に還元しやすいと思う。

### (3) リニューアルオープン後の県立図書館内を見学

見学後、全体的な総評など

- (委員) 小中学校と高等学校で図書館の利用に対してすごく温度差がある。小中は盛んで図書館を使わせようと熱い想いを持った先生もおられる。高校はどうやって利用を伸ばそうかと考えている。県立図書館が県立高校へのサポートとしてビブリオバトルをとりあげているのは本を読むきっかけづくりとなっている。これからも是非高等学校に対して様々な働きかけをしていただきたい。今の状況を良くするためにまず先生を呼び込まないといけない。先生を変えずに生徒を変えることはできないので、上手く先生を取り込んでいただければ生徒に広まっていくと思っている。また、ビブリオバトルのような取り組みは、学校のHPに掲載するので周辺に伝播していく。
- (委員) リニューアル後の館内について、もっと想いを伝えて欲しい。例えば課題解決コーナーはみんなで話あってもらうというコンセプトを文字で伝えて欲しい。親子読書室にしても「お子様と一緒に閲覧するサービスです」という事実だけを伝えているが、「お子さんがいても、お父さんやお母さんが気兼ねなく閲覧できるスペースです」と少し表現を変えて想いを文字にするだけで変わるのではないかと思う。
- サインもイラストや写真をいれて華やかになればと思うが、それにも人が必要だと思う。外部の人を巻き込んで、サインを作ってもらったり「参加型の図書館を一緒に作っていきませんか」と発信してみるのもおもしろいのではないか。
- 図書館のファンをつくるためには、連続的な講座を企画して利用者をグループ化していくような働きかけをしてもよいのではないか。
- (委員) 私はこの図書館が静かすぎて少し息苦しい印象を持った。雰囲気というのは大切である。県立図書館に来れば気持ちが落ち着く、そこで本でも読んでみようと思える、いつもと違う雰囲気が味わえる場所になれば。先ほど館内を見た時にはブラインドをしていたが、時には外の緑を借りた部屋にするのも素敵だと思う。
- 閲覧室の書架の高さがとてもよかった。ここに来れば、自分の興味のある発見がある。これもやはり図書館へ来てもらわないとわからないこと。ここへ来るまでの道がとても素敵なので、それを活かした図書館へ来てもらうための仕掛けづくりが大切である。目的を持たずやって来たがここで新たな刺激を、興味を沸き立たせてくれたと思ってもらえるような場所になれば。
- 試写室については、試写室と研修室をセットで借りられるようなことができれば各種団体の勉強会などにも使えるのではと思った。また、場合によっては個人的に興味のある資料を一人で見る「私だけの映画館」というのもおもしろい。
- (委員) 外部とつながるとか、わくわくするようなキャッチコピーを考えることが必要。そのために職員が研修でやり方を学ぶということも必要である。そしてここで働く職員が来館者だけでなく、一般市民のニーズをわかるということも必要かと思う。ニーズに少しでも寄り添えることができればいいと思う。
- 他の委員が言われたようにグループ化というのもいいと思う。講座が終わってからも自主的に続けようという動きができ、そのグループが県立図書館を使うというのはいい方法だと思う。
- (委員) 企画委員会のような場をもっても良いのではないか。外部の人にどんどん入ってもらって色んなアイデアをだしてもらえればと思う。
- 図書館の機能としては、レファレンスも頑張りたい。レファレンスもキャッチーなPRができれば。フェイクニュースが氾濫する世の中で、ウィキペディアで調べるだけで終わらず、そこから更に図書館で調べるといった流れを作っていくことができればと期待している。
- (委員) 今の潮流はにぎやかな、交流のある図書館と変わってきているが、実際に利用している学生に聞くと、最初は評判が良かったのだが、一部の声かも知れないが、最近は良くないという声が増えてきた。理由を聞くと、席が空いていない、賑やかではなく、うるさくて調査研究用としては使えないということだった。
- 私もこれからの図書館は交流・つながりの場でないといけないと提唱していたが、それだけではないと学生に気付かされた。やはり静寂というものも求められている。北欧の図

書館もにぎやかな図書館だったが、静かな場所もしっかりと確保されている。国立国会図書館はとっても静か。そう考えると生活に密着した市町立図書館は賑やかな図書館であり、図書館の図書館である県立は、賑やかさはある程度でよく、調査研究に重きを置き、学術書専門書の貸出しをしているのであれば、そちらを優先する場の使い方をしていくべきである。

利用について、課題解決コーナーは利用者だけのディスカッションで自分たちだけで課題解決するには難しい場合があり、司書と何らかの繋がりが保たれるべきである。それから調査研究するのであれば閲覧席に電源は必要。パソコン貸出しも欲しい。コンセプトを明確にして、市町立のようににぎわいのある明るい図書館にするのか、知的刺激のある学術的な図書館にするのか、今は中道を行かれている印象を受けた。

(委員) 車いす利用者専用の机がないように見受けた。併せて、災害が多い時期なので非常時に来館者をどのように誘導するかということを決めてシミュレーションしていくことが大事であると思う。館内の段差についても、ハンデのある方には負担になるのでスロープをつけていただいたり、専門家の意見を参考に取り入れていただくなどお願いしたい。

サインについても、識別できない色調もあるようなので、そういった点にも気を配っていただきたい。

(委員) 部屋を貸し出せないか考えてみてはどうか、色々な制限もあるかと思うが、例えば民間企業が自社の研修会の場所として使用するなど、たくさんの方に利用してもらいたい。

来館という点では、ターゲットをどうするか、先ほどから意見がでていますが、私、個人としては中学校から高校・大学生の本離れが気になっている。ここには専門的な本がたくさんあるので、その年代の方達を呼び込むような手立てを考えてもらえればと思う。

(委員) まず図書館に4ヶ月～1年間にわたる講座があれば、蔵書も有意義に使ってもらえるのではないかな。

課題解決コーナーはいい試みであるが、わいわい話して終わりだけではもったいない。私は、色々な課題が生じたときに解決してくれる専門家を紹介できるシステムがあればいいのではないかなと思う。それがあれば来館者も素人同士で話すだけでなく何か一つでも解決するきっかけになる。

新聞が効果的だと思う。小さくてもいいので月1回程度県立図書館のコーナーがあれば知ってもらえると思う。よく本の紹介があるが本が好きな人なら知っている本ばかり、それよりも県立図書館にある誰も知らないコアな本の方がおもしろいのでは。今日、館内を1度見回っただけでも関心を持つ本があったのでそんな記事があればいいなと思った。

最後に、駅からここまでくるのが年々大変になってきた。駅からのアクセスが徒歩では厳しいのでコミュニティバスのルートに県立図書館を入れてもらえたらと思う。